

紹介が遅れましたが、5月31日から6名の教育実習生が来ています。全員70回生です。写真左は、保健体育科に来た4名で、



左から藤本大晴先生(日本大学4年・柔道・1-2担当)、野村陽花先生(大阪体育大学4年・ソフトボール・2-4担当)、寺道雄規先生(仙台大学4年・野球・3-2担当)、岩本治樹先生(大阪体育大学4年・野球・2-2担当)です。写真右は左から数学科の中里虹太先生(高知大学4年・サッカー・1-3担当)、英語科の中岡早紀先生(神戸女子大学4年・吹奏楽・2-6担当)です。実習も2週目に入り、授業を数多く持っている関係で指導案に随分と時間をかけていて苦勞しているようです。私自身を振り返ってみても教育実習中の指導案の添削や担当教員との相談の時間は教員人生の基本となるべきものでしたし、実際に教員になってからは毎時間毎時間組み立てるのが必死で、時間に追われていたことを思い出します。指導案の組み立てとして、年間計画、単元計画、1時間ごとの計画と大きな枠組みの中でその1時間をどう指導するかということを考えなくてはなりません。教育実習という期間ではなかなか単元計画のイメージまでは持ちにくいのですが(日々の時間が必死であるため先を見通す余裕が持てない)、何をするにも計画は必要で、ゴール地点が見えていないと評価もしにくい、自身の指導方法の反省もできません。目の前のことに必死になりすぎるあまり、全体像が見えていないということにならないよう気を付けながら残りの実習を送ってほしいと思っています。皆さん真面目に取り組んでもらっています。実習生の皆さんには生徒たちにも一番身近な存在としていろいろなアドバイスや声掛けをしてほしいとお願いしています。生徒の皆さんも卒業生と触れ合える絶好のチャンスですからいろいろと質問をしてください。来週の文化発表会までの実習期間となります。よろしくお願

いします。

緊急事態宣言延長に伴い中止とした74回生の修学旅行ですが、代替案がまとまりました。7月13日・14日に淡路島ニジゲンノモリとネスタリゾートへ行くことになりました。県内有数のテーマパークでとにかくリラックスして高校生活の思い出を作ってもらえればと思っています。現在の状況であればなんとか行けるのではないかと考えています。北海道のスキー実習の修学旅行の企画2回、ディズニーリゾートの企画1回の計3回を延期してまいりました。その都度期待をさせては裏切るような形となり、生徒保護者の皆様には随分とご心配をおかけしたことと思います。生徒たちとの面談でも、昨年来思い出が作れていないなどの感想を聞きましたので、近場で短い時間ではありますが、少しでもそのモヤモヤを解決できればと思っています。ご理解、ご協力をお願いいたします。

また、3年生との面談も終盤に差し掛かりました。昨年大学入学共通テストになり大きな変更があった大学入試ですが、基本的な流れはまだそれほど変わっていません。推薦入試の呼び方も総合型選抜(従来のAO入試)、学校推薦型選抜(公募制推薦及び指定校推薦)と変わりましたが、内容は大きくは変わっていません。その準備として、どのような取り組みや下調べが必要かはそれぞれ違うのですが、試験の内容をしっかりと把握すること(面接小論文対策及び科目試験の配点等)で対策の立て方や取り組み方が変わりますし、私立大学は全国偏差値を参考に、国公立大学で共通テストが必要な場合にはその得点率を参考にして準備を進めていきます。一般的に科目数が減れば偏差値や得点率は上がります。また、実力相当校、チャレンジ校、安全校と自らの力をしっかりと分析し、シフトを引くことが大切です。1校だけの受験で結果が出ればよいのですが、なかなかうまくいかないことも多いですので、どのようなパターンを利用するか、自分の性格や目標とのギャップ等しっかりと考えて準備を進めていってほしいという話をしています。専門学校の人にはエントリーが早いところも多いのでしっかりとした見極めをすること、就職を希望する人はなぜその会社を希望するのかしっかりとした理由を持つことといった当たり前の話をしています。いまだ方向性が決まっていな人には、少しきつめの話を、とにかく考えて結論を出すように言っています。それぞれがしっかりと自分のことを考え、今後の生活のことを考えた進路選択をしてほしいですし、最後までその心意気を応援したいと思っていますので、できる準備をしっかりと進めていってください。1、2年生はそのような先輩の姿を見て学んでいきましょう。よろしくお願